

特定非営利活動法人 JAM ネットワーク

【総括】

・企業との協働や行政助成金による社会貢献事業では、GSギブズプロジェクト、ML・バンクオブアメリカプロジェクト、WAMプロジェクト、JXホールディングスプロジェクトの4つの事業で児童養護と母子生活支援施設で、ことばキャンプの実績を残した。

その成果として、次のようなものが上げられる。

- ①児童養護施設数が拡大した。また拠点である、横浜市へ地域的な展開があった。
- ②母子生活支援にチャレンジした。実施前は、むずかしい状況の母親への支援が可能か懸念されたが、ことばキャンプの強みである、職員・子ども・親子・親のアプローチを組み合わせることで、良い評価をいただいた。子どもの貧困の問題が課題となっている今、シングルマザー層への支援事業展開の可能性が期待できた。
- ③横浜市の事業において、独自に児童養護施設を開拓した。コーディネーターの存在がなくても、新規開拓を進めることが可能となり、広がりが期待される。
- ④中学生ことばキャンプを実施した。思春期の子ども達なのでむずかしさが懸念されたが、小学生ことばキャンプを受けた子どもたちを中心に実施したことで、やりやすさがあった。実施してみて、中学生だからこそ必要、という声が施設からも上がっていた。  
2013年の高校生ことばキャンプに続いて中学生のプログラムが揃った。中学生・高校生ことばキャンプを展開するには、担当できる講師の養成が必要であろう。
- ⑤里親支援事業が、微増であるが展開してきた。依頼を受け、里親・里子向け講座、専門里親研修、高校生の里子の講座を行い評価をいただいた。児童養護施設の子もばかりでなく、社会的養護の子ども・養育者のプログラムが求められているニーズを実感した。担当出来る講師の養成が必要であろう。
- ⑥自主事業では、大人版ことばキャンプ、子ども対象ことばキャンプ、知育玩具とのコラボことばキャンプを実施した。2014年度は、収益をあげる事業になってはいないが、今後の自主事業への布石となると考えられる。
- ⑦依頼講座の民間学童保育の講座は、1年間で終了した。子どもの集客不足が原因。「ことばキャンプ」の認知を広げる努力と、対象者を明確にして告知を徹底していく必要があるだろう。
- ⑧管理部門では、会計補助、セミナー管理、HP/FB運営を、担当スタッフによって行われた。
- ⑨オフィスソリューションズの梅田眞二氏に、ことばキャンプの戦略を依頼した。2014年9月～2015年3月、高取・菅澤を中心に、スタッフがグループコンサルティングを受け、6月11日に「事業戦略戦術デザイン」の報告書を受領した。2015年度の計画は、報告書をもとに立案した。
- ⑩ことばキャンプの認知を広げるために、わかりやすい告知の必要性があるため、HPを刷新する必要がある。
- ⑪神奈川県子ども・子育て支援大賞奨励賞を受賞した。
- ⑫かながわボランティア基金21助成金事業に申請し、選定された。(評価の内容を口頭で伝える)神奈川県次世代育成部子ども家庭課との協働事業が、今後5年間継続して行われることになった。

以上 (